

# FF-V4502・FF-45GT 工事説明書

## 工事店様へのお願い

この製品は  
●排気筒内径 → φ40、外径 → φ41  
●給気筒接続口外径 → φ40、内径 → φ39になっています。

使用する工事部品は、必ず本機の附属品及びトヨトミ  
純正別売品の給排気筒を使用してください。

設置工事前に、この工事説明書をよく読み正しく据付けてください。  
この工事説明書は工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。

\*本文中のイラストはFF-V4502にしてあります。

## 安全のために必ずお守りください

●ここに示した事項は、△警告、△注意に区分しています。

**△警告** この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

**△注意** この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●イラスト(まんが)の横にある①マークは「禁止」、②マークは「指示」、△マークは「注意」を表しています。

### △警告

★据付けや移設は、販売店  
または 据付業者  
がおこなってください。  
指示

お客様が自身で据付けや  
移設をされ、不備があると  
感電や火災の原因になります。

★屋内給排気及び床下給排気禁止  
屋内または床下に排気  
すると、排ガスが室内に  
漏れて危険です。  
必ず屋外に排気して  
ください。

運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

★給排気筒を確実に接続  
給排気筒を確実に接続し、しっかりと  
固定してください。風、振動、  
衝撃などで外れたりすると運転中に  
排ガスが室内に漏れて危険です。

### △注意

★次の場所には据付けない  
火災や予想しない事故の原因になります。  
●温室、飼育室など人のいない場所。  
●付近に燃えやすいものがある場所。  
●水平でない場所、不安定な場所。  
●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所。  
●不安定な物をのせた棚などの下。  
●防火対策をしていないマントルピース。  
●可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所。  
●特殊な壁(内部に通気層があるものなど)を使用している場所。  
●高地(標高1500m以上)では使用しないでください。酸素濃度が薄いので不完全燃焼  
します。標高1000~1500mの場所では再調整が必要です。  
裏面の「**高地仕様への変更のしかた**」を参照して、調節してください。

## △注意

●この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

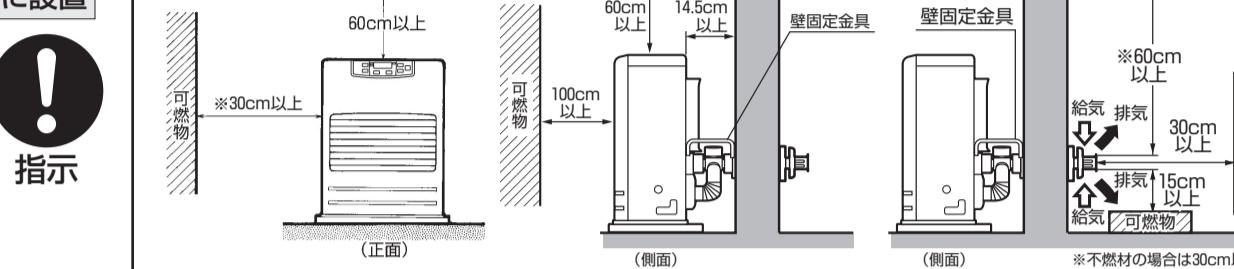
この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●イラスト(まんが)の横にある①マークは「禁止」、②マークは「指示」、△マークは「注意」を表しています。

### △警告

★据付けは火災予防条例、電気  
設備に関する技術基準など  
法令の基準を守っておこなって  
ください。  
指示

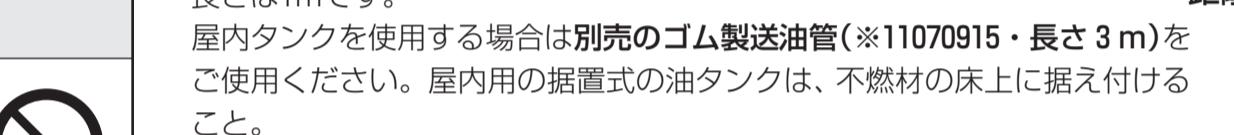
●可燃物との距離を離す  
ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は  
図のようにしてください。  
標準据付け例



★給排気筒トップは閉そくしない場所に設置  
積雪が多いときに給排気筒トップの  
周りが雪でふさがれない場所に  
設置してください。  
また、板などによる「雪囲い」は  
給排気の妨げになるのでおやめ  
ください。



★屋内給排気及び床下給排気禁止  
屋内または床下に排気  
すると、排ガスが室内に  
漏れて危険です。  
必ず屋外に排気して  
ください。



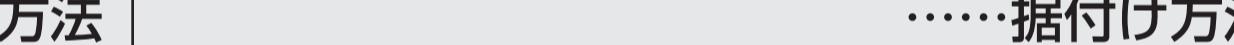
★給排気筒を確実に接続  
給排気筒を確実に接続し、しっかりと  
固定してください。風、振動、  
衝撃などで外れたりすると運転中に  
排ガスが室内に漏れて危険です。



★油タンクとの距離を離す (FF-V4502のみ)  
油タンクはストーブより2m以上離して据付けるか、防火上有効な遮へいを  
設けてください。

●屋外タンクでの使用を前提としておりますので、附属のゴム製送油管の  
長さは1mです。

屋内タンクを使用する場合は別売のゴム製送油管(※11070915・長さ3m)を  
ご使用ください。屋内用の据置式の油タンクは、不燃材の床上に据付けること。



●油タンクの上には重量物をのせたり、折れ曲がったり、空気たまりができる  
ような形状にならないようにご配慮ください。

●規定の送油管以外は使用しないでください。

●ゴム製送油管は、油タンクを屋外に設置する場合は使用しないでください。

●ゴム製送油管は、金属製送油管(外径φ40・8鋼管)を使用してください。

お願い 金属製送油管で配管する場合は、切断や加工時の切りくずや切り粉をきれいに  
取り除いてから配管してください。切りくずや切り粉が配管内に入りますと、  
ストーブの故障の原因になります。

●ゴム製送油管の取付けは、曲げ半径が小さかったりねじれたりするとゴム内部に  
応力が加わり短時間でヒビ割れなどが発生し油漏れの原因になります。曲げ半径は  
最低でも100mm以上になるよう、またねじれのないように設置してください。

●ゴム製送油管は紫外線に当たると劣化が早くなります。できるだけ日光の当たらない  
場所を選んでください。

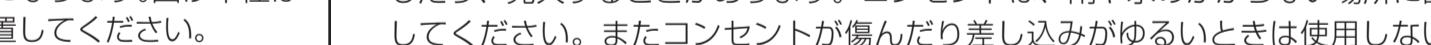
●ゴム製送油管は時間とともに劣化しますので定期的に点検してください。

2年に1度は新しい物に交換されることをおすすめします。

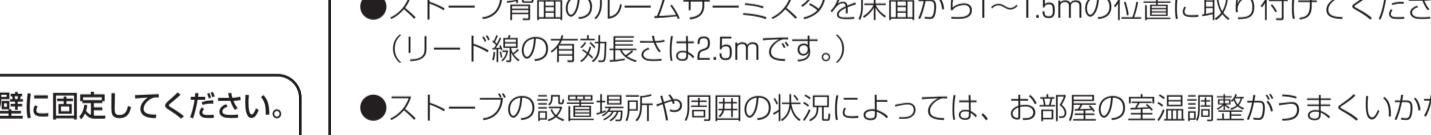
### ストーブの固定

ストーブの据付けが終りましたら、附属品の壁固定金具で本体を壁に固定してください。  
壁に固定できない場所での使用はおやめください。

①木または厚い合板の壁に固定する場合は、附属品の  
壁固定金具を固定し、木ねじを使用して壁に直接固定  
してください。



②モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、  
コンクリート用プラグを壁に打ち込んでから、①項と  
同様に壁固定金具で固定してください。



### △注意

●排気筒内径 → φ40、外径 → φ41  
●給気筒接続口外径 → φ40、内径 → φ39になっています。

使用する工事部品は、必ず本機の附属品及びトヨトミ  
純正別売品の給排気筒を使用してください。

設置工事前に、この工事説明書をよく読み正しく据付けてください。  
この工事説明書は工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。

\*本文中のイラストはFF-V4502にしてあります。

## △注意

●ゴム製送油管の屋外使用禁止 (FF-V4502のみ)

ゴム製送油管は屋外で使用しないでください。ひび割れを生じて油漏れの  
原因になります。

## 1 開こん

●包装箱から製品を傷つけないように取り出し、包装材などを取除いてください。  
●本機は重量がありますので取り出しへは注意してください。

●その他お使いになる前に製品の輸送中に生じた小ねじのゆるみやはずれなどを  
ないかを調べてください。

## 附属品の確認

●開こんが終わりましたら、つきの附属品がすべてそろっていることを確認して  
ください。

壁固定金具	ゴム製送油管 (1m) (FF-V4502のみ)	ホースバンド (小) (FF-V4502のみ)
固定ねじ 2個 木ねじ 2本 タッピングねじ 2本	ゴム製送油管 (1m) (FF-V4502のみ)	ホースバンド (小) (FF-V4502のみ)



●送油管取り付け時の確認 (FF-V4502のみ)

既設の油タンクを使用する場合は、送油管をストーブに取り付ける前に、  
油タンクからの油灯をバケツなどの容器で受け、油タンク内に水、ごみ、  
さびなどがないことを確認してから取り付けてください。

油タンク内に水、ごみ、さびなどがあったままでいるとストーブの故障の原因になります。

●ストーブ交換時にはゴム製送油管を交換 (FF-V4502のみ)

ストーブ交換時には、既設のゴム製送油管を必ず交換してください。

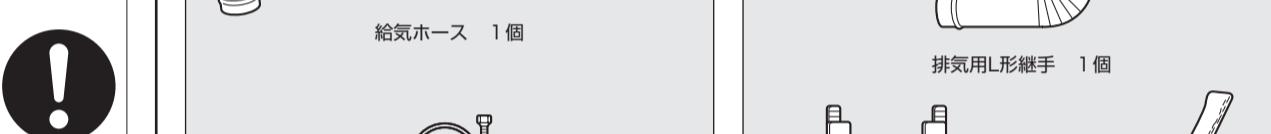
ゴム製送油管は時間とともに劣化しますので、できるだけ日光の当たらない  
場所を選んでください。

●給排気筒の点検

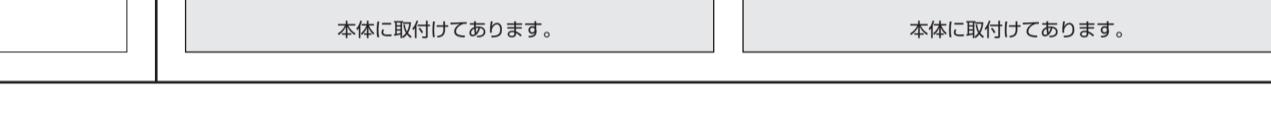
据付けが終ったら、もう一度点検してください。

次のような取付けは、危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがあるので、  
必ず修正してください。

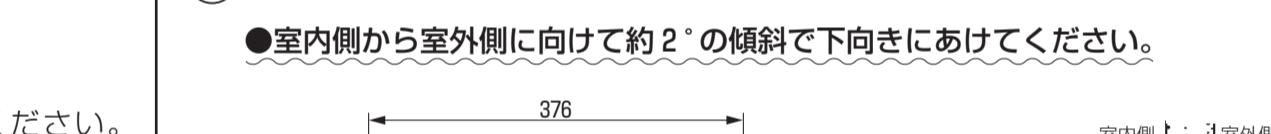
●可燃物近接禁止  
接続部は正しく接続  
されていること  
●排気筒は壁から離す  
こと



●給排気筒トップ付近の  
危険物近接禁止  
●可燃物貫通、接近の  
ときは断熱



●給排気筒トップと開口部(窓など)  
との距離が離れていること  
●トップ先端の障害物禁止  
●下り勾配のこと



●オーリングP40 4種C  
●給気口キャップ 1個  
●パイプホルダー 1個  
●木ねじ 4本 (ルームサーミスタ用 1本)



## 2 据付け

### 据付け場所の選定

●ストーブを据付けする床面は強い振動や衝撃がなく、ストーブの重量に充分耐え、  
安定していることが必要です。

●ストーブは水平になるように置いてください。ストーブが水平でないと異常燃焼や  
対震自動消火装置の誤作動の原因になることがあります。

●ストーブは冷気の入ってくる方向、例えば外気の接する窓の下、壁面に設置する  
と効果的です。ただし、人の通る所や、可燃物の近くには置かないでください。

●ストーブに物品が落する可能性があるときは、落下の可能性のないように処置を  
しておいてください。

●交流100Vの電気のコンセントの位置を考慮してください。またコンセントは雨や  
水がかかるところ、ほこりの多い場所には設置しないでください。

●直射日光の当たる場所や、温度の高い場所には設置しないでください。

●理・美容院、メキ、塗装工場、繊維関係工場などスプレーや化学薬品を利用する  
場所及びほこりの多い場所では使用しないでください。また温室、飼育室など、  
動物の育成栽培に使用しないでください。

●△警告、△注意 の頂をご確認ください。

### 据付け方法

#### 油タンクの組立てと据付け (FF-V4502のみ)

●油タンクの据付けについては、各地の火災予防条例に従ってください。

●油タンクは、ストーブとの間に防火上有効な壁などがない場合は2m以上離して  
ください。

●油タンクの送油バルブ(油の出口)と本体の送油管との落差は30cm以上になるよう  
に置いてください。

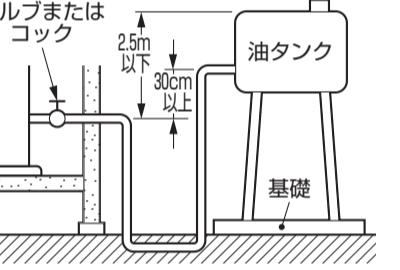
●オイルヘッド面との落差は最大2.5m以下にしてください。油が定油面器より  
あふれ出ることがあります。

●室外設置の油タンクの場合は、右図の落差を  
とってください。

●油タンクは組み立ててください。

●油タンクは、熱・振動・衝撃の少ない場所に  
設置してください。

●床置式の油タンクは、畳・じゅうたんなどの  
上に据付けないでください。



### 3 給排気筒の取付け

#### 給排気筒の取り出し場所の選定

●△警告、△注意 の頂をご確認ください。

●給排気筒トップが閉そくされないよう積雪の多い地方では注意してください。  
排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

●給排気筒トップは高温になります。人通りの多い所や、可燃物がある所や、  
可燃性ガスの発生する所には取り付けないでください。

●木札やわら、木の葉など  
は燃えやすいので、燃えやすい物には取り付けないでください。

●石油を燃やさせるため、点火時、室温調節器の作動時、消火時に、油が漏れています。  
出入口に近い所、また、外気が室内に入りやすい所には取り付けないでください。  
隣の家に、においが入ることは迷惑となりますので、避けください。

●壁に穴を開ける場合、壁の内部にある

# FF-V4502・FF-45GT 工事説明書

標準給排気筒の取付け		延長給排気工事の限界	
<p>⑩ 給気ホースをチャンバー室の給気側とストーブ本体背面の給気口に取り付け、ホースバンド(大)で固定します。</p> <p>●排気用L形継手を断熱カバーでしっかりと覆ってください。</p> <p>●排気用L形継手が露出していないことを確認してください。</p> <p>●給気ホースは、排気用L形継手に接触しないように取り付けてください。 熱で変形するおそれがあります。</p>		<p><b>お願い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●やけど防止のため排気筒には、必ず断熱カバーを装着してください。</li> <li>●壁や給気ホースに排気筒が接触しないように、パイプ支え金具で、壁などに固定してください。</li> </ul> <p><b>集合煙突利用の禁止</b></p> <p>高層建築の集合煙突を利用して給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。</p> <p><b>給排気筒の再利用時の注意</b></p> <p>古い給排気筒は使用しないでください。必ず附属の給排気筒セットを使用してください。</p>	
		<h2>4 試運転</h2> <p>●試運転は、ご使用者と一緒に必ずおこなってください。</p> <p>●取扱説明書「15 据付け・移設について」の「試運転」に従って、運転準備、運転、消火の手順の試運転をおこなってください。</p> <p><b>お願い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ストーブの据付け工事が終わったら、必ず試運転をおこない、使用者に運転方法はもちろんのこと、日常の点検・手入れの方法、定期点検、故障・異常時の処置方法、連絡先等をお教え願います。</li> <li>●同梱の「取扱説明書」、「保証書」と共に工事終了後はこの「工事説明書」をお客様にお渡し願います。</li> </ul>	
		<h2>5 廃棄するときの注意</h2> <p>ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。 リサイクルの支援となります。</p>	
<h2>高地仕様への変更のしかた</h2> <p>〔標高1000~1500mの場所でご使用の場合〕</p> <p>※イラストはFF-V4502タイプです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>運転停止中に「-」「+」ボタンを同時に3秒押します。 デジタル表示部が「1E」表示に変わります。 (室内温度が表示されていることもありますか問題ありません)</li> <li>「上」マークを上側にすると約2°の傾斜がとれて、 設置できます。</li> </ol>			
<p>⑫ ⑤頂で軽くねじ込んで固定してトップ本体を、もう一度強くねじ込んでしっかりと固定してください。 ●「上」マークを上側にすると約2°の傾斜がとれて、設置できます。</p>		<p>⑬ トップ本体のフランジ部全周などにコーキング剤(シリコン系)を塗布し、雨仕舞をしてください。</p>	
<p><b>お願い</b></p> <p>完全にコーキングしないと、雨水が室内や壁内に入ることがありますので、充分注意してください。</p>		<p><b>標準給排気筒の取付け</b></p> <p><b>注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●壁内の鉄筋・鉄骨・電気配線・ガス水道の配管を充分考慮してください。</li> <li>●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものは使用できません。</li> </ul> <p><b>指示</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のある場合は、別売部品を使用してください。</li> </ul>	
<h2>延長給排気工事の限界</h2> <p>■延長工事部品は、必ずトヨミ純正別売部品FFP-68-4040(1m延長セット)、FFP-69-4040(2m延長セット)などをご使用ください。</p> <p>●給排気筒の長さは3m以下、曲がりは3箇所以下にしてください。</p> <p>●標準給排気方式以外にもお部屋の条件によって、排気筒と給気ホースを延長して取り付けることができます。 ただし延長限界は3m以下で曲がり3箇所以下です。</p>		<p>もし、高地設定を解除したいときは、1の操作からやり直してください。 ブザー音がしてデジタル表示部に「AL Lo」表示が3秒間点滅し、元の表示に戻ります。これで高地設定は完了です。 一度設定をすれば電源プラグを抜いたり、停電があった場合でも高地設定は保持されます。</p> <p>1.型紙の床面を床に合わせて壁に貼り付ける。 2.壁固定金具が取り付けやすい位置を選びねじを取り付ける位置に印をつける。 3.穴あけ位置に給排気筒の取付け穴を開ける。</p> <p>●壁に給排気筒の穴(Φ70~Φ80)を開けてください。 室内側から室外に向けて約2°の傾斜で下向きに開けてください。</p>	

# 給排気筒取付け型紙

**工事店様へのお願い**

この製品は  
●排気筒内径 → Φ40、外径 → Φ41  
●給排気筒接続口外径 → Φ40、内径 → Φ39  
になっています。

